

2012年12月28日 全5頁

Indicators Update

11月鉱工業生産

足下の生産は下振れしたが、計画は強気

経済調査部
エコノミスト 橋本政彦

[要約]

- 2012年11月の生産指数は、前月比▲1.7%と2ヶ月ぶりの低下となり、市場コンセンサス(同▲0.5%)を下回った。また、出荷指数は前月比▲1.1%と低下したものの、在庫指数が同▲1.2%と低下したことから、在庫率指数は同▲0.3%と2ヶ月連続の低下となった。
- 製造工業生産予測調査によると、2012年12月の生産計画は前月比+6.7%と大幅に増加した後、2013年1月も同+2.4%と2ヶ月連続の増加を見込んでいる。12月に関しては足下で増産傾向が続いている電子部品・デバイス工業が大幅な増加を見込んでいることに加えて、輸送機械工業、情報通信機械工業の増加が全体を押し上げる見込み。1月に関しては電子部品・デバイス工業の生産は減少に転じる見込みだが、輸送機械工業、情報通信機械工業の増加が引き続き生産を押し上げる格好となっている。素材系業種でも、12月、1月は総じて生産の増加を見込んでおり、生産計画は全体的に強気の内容となっている。
- 生産と連動性の高い輸出数量は依然悪化傾向が続いているものの、中国以外のアジア向けでは改善の兆しがみられること、減少が続く中国向け輸出に関しても、中国景気の様子を受けて改善に向かう公算が大きいことから、輸出向け出荷は徐々に増加に転じると考えている。また、国内自動車販売の底打ちにより、他産業への波及効果が大きい輸送機械の生産も増加基調となる見込みであることから、生産は年明け以降回復に向かう公算が大きい。

鉱工業生産の概況(季節調整済み前月比、%)

	2012年								
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
鉱工業生産	▲0.2	▲3.4	0.4	▲1.0	▲1.6	▲4.1	1.6	▲1.7	
コンセンサス								▲0.5	
DIR予想								▲0.1	
生産者出荷	0.6	▲1.3	▲0.9	▲3.1	0.2	▲4.3	▲0.1	▲1.1	
生産者在庫	2.0	▲0.7	▲1.2	2.9	▲1.6	▲0.9	▲0.1	▲1.2	
生産者在庫率	6.9	▲3.7	4.2	3.7	▲2.3	4.2	▲2.1	▲0.3	

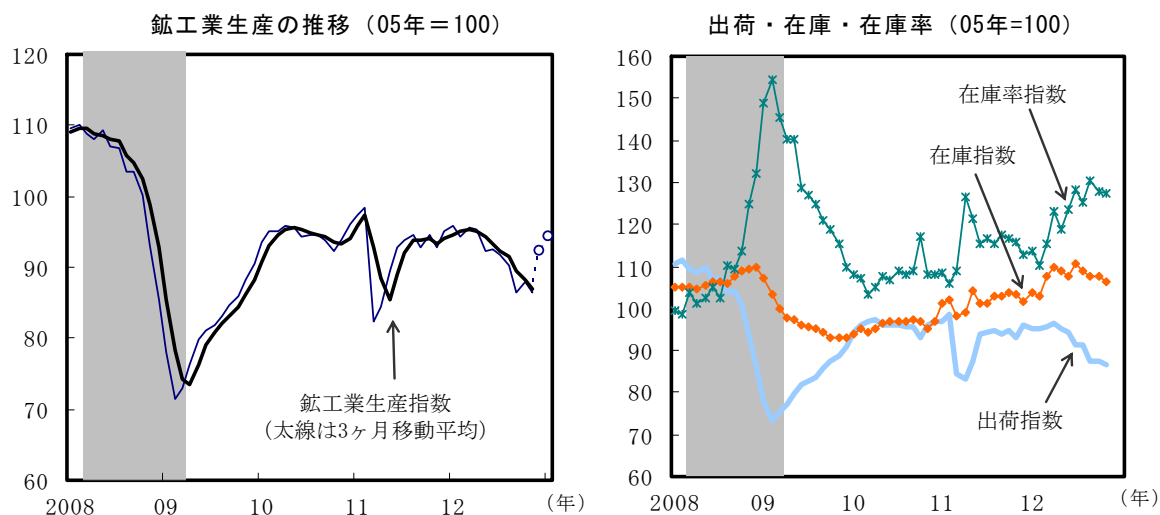
(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) 経済産業省、Bloombergより大和総研作成

生産指数は2ヶ月ぶりの低下

2012年11月の生産指数は、前月比▲1.7%と2ヶ月ぶりの低下となり、市場コンセンサス(同▲0.5%)を下回った。また、出荷指数は前月比▲1.1%と低下したものの、在庫指数が同▲1.2%と低下したことから、在庫率指数は同▲0.3%と2ヶ月連続の低下となった。

生産・出荷・在庫の推移(季節調整値)



(注1) 生産指数の直近2ヶ月の値は、製造工業予測指数による。

(注2) シャドローは景気後退期。

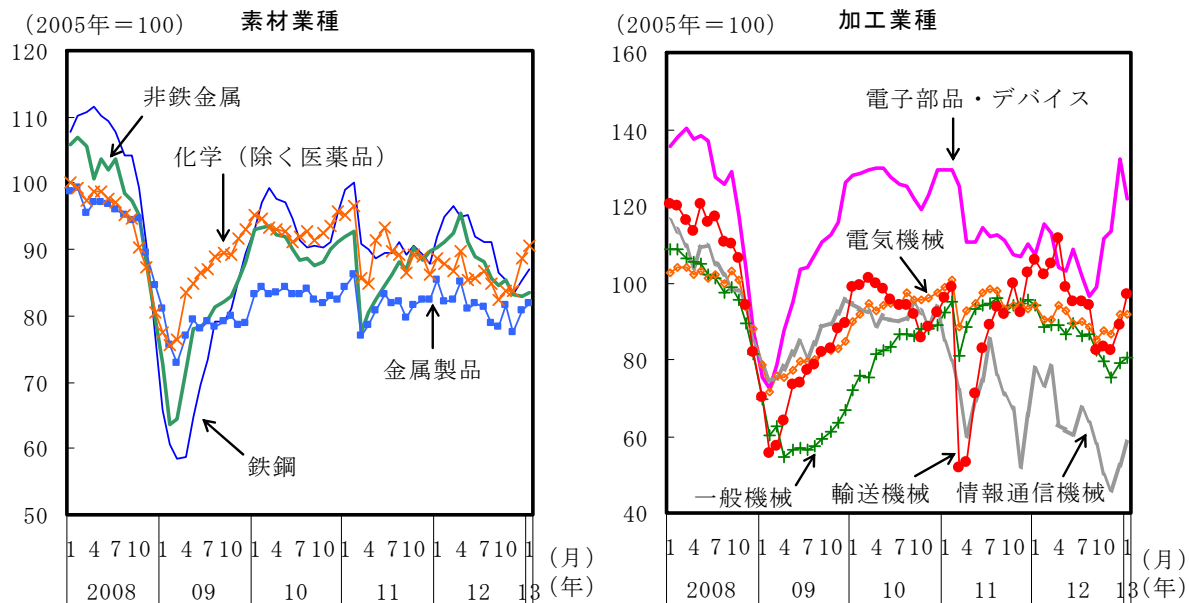
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

12月、1月は総じて強気の生産計画

11月の生産を業種別に見ると、全16業種中、11業種が前月から低下した。なかでも、中国を中心としたアジア向け輸出の低迷が続く一般機械工業の低下と、前月の反動による金属製品工業の低下が生産全体を押し下げた。一方、10月に大幅に増加し、11月に関しても強気の生産計画を立てていた電子部品・デバイス工業は、計画からは下振れしたものの、3ヶ月連続の増加となった。

製造工業生産予測調査によると、2012年12月の生産計画は前月比+6.7%と大幅に増加した後、2013年1月も同+2.4%と2ヶ月連続の増加を見込んでいる。12月に関しては足下で増産傾向が続いている電子部品・デバイス工業が大幅な増加を見込んでいることに加えて、輸送機械工業、情報通信機械工業の増加が全体を押し上げる見込み。1月に関しては電子部品・デバイス工業の生産は減少に転じる見込みだが、輸送機械工業、情報通信機械工業の増加が引き続き生産を押し上げる格好となっている。素材系業種でも、12月、1月は総じて生産の増加を見込んでおり、生産計画は全体的に強気の内容となっている。

主要業種の生産推移

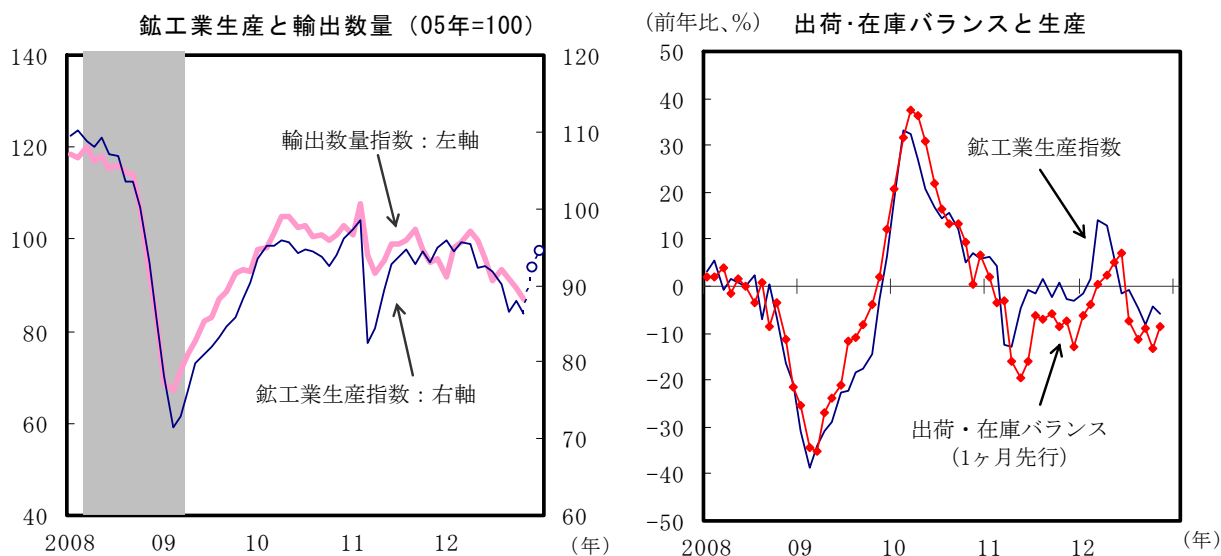


(注) 直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

生産は年明け以降回復へ

生産と連動性の高い輸出数量は依然悪化傾向が続いているものの、中国以外のアジア向けでは改善の兆しがみられること、減少が続く中国向け輸出に関しても、中国景気の持ち直しを受けて改善に向かう公算が大きいことから、輸出向け出荷は徐々に増加に転じると考えている。また、国内自動車販売の底打ちにより、他産業への波及効果が大きい輸送機械の生産も増加基調となる見込みであることから、生産は年明け以降回復に向かう公算が大きい。

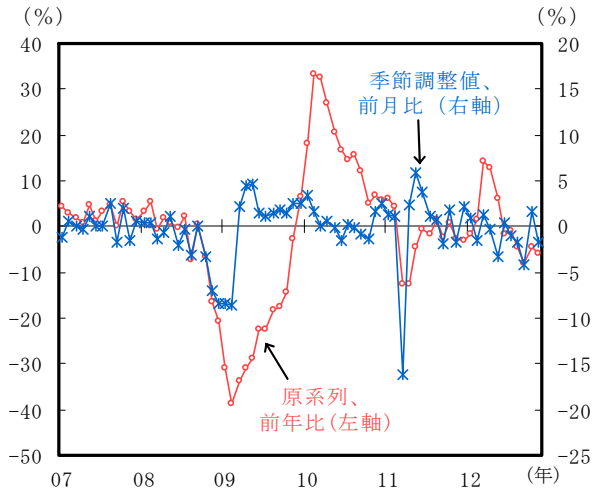
出荷・在庫バランスと生産見通し



(注1) 生産指数の直近2ヶ月の値は、製造工業予測指数による。
(注2) シャドローは景気後退期。
(出所) 経済産業省、内閣府統計より大和総研作成

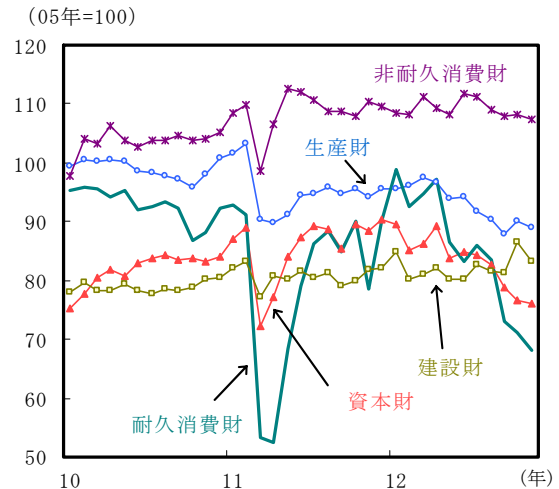
概況

鉱工業生産指数の変化率

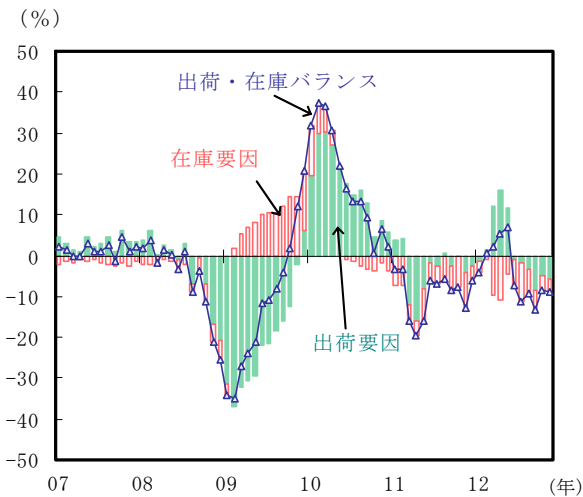


(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

財別の生産指数(季節調整値)

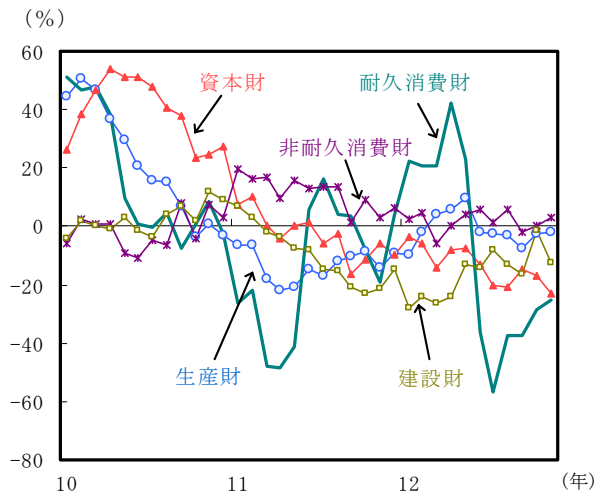


鉱工業生産指数の出荷・在庫バランス

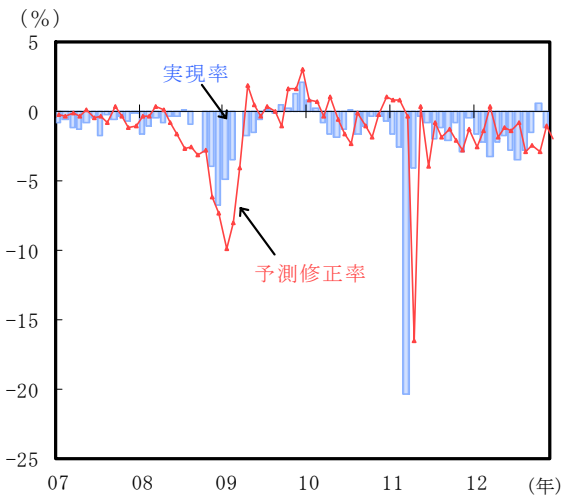


(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

財別の出荷・在庫バランス

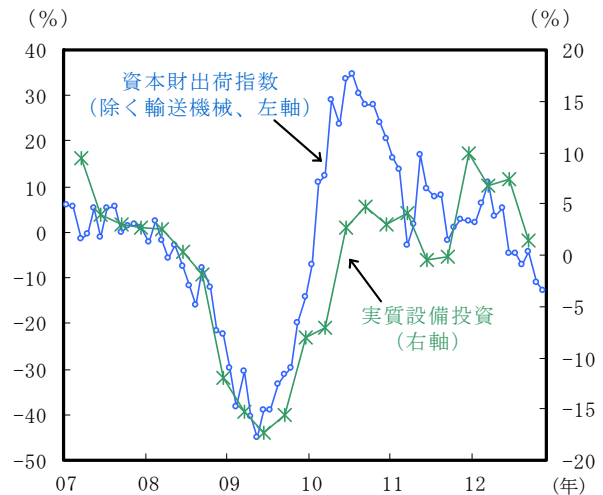


予測修正率と実現率



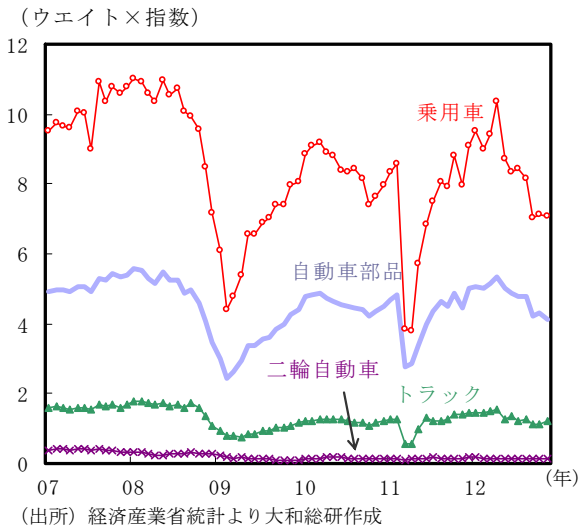
(出所) 経済産業省、内閣府統計より大和総研作成

資本財出荷[除く輸送機械]と設備投資(前年比)

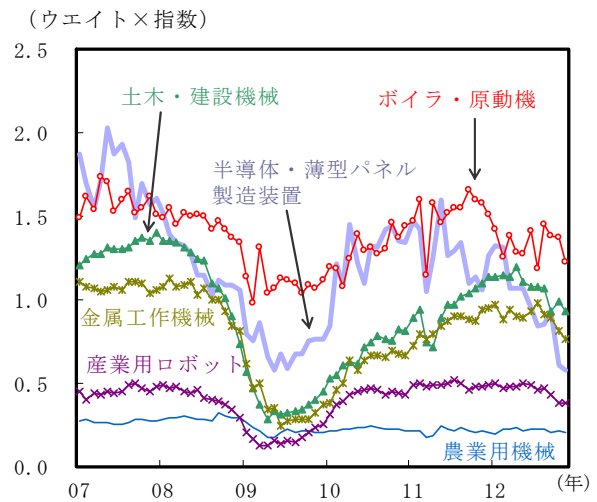


主要産業の生産動向(季節調整値)

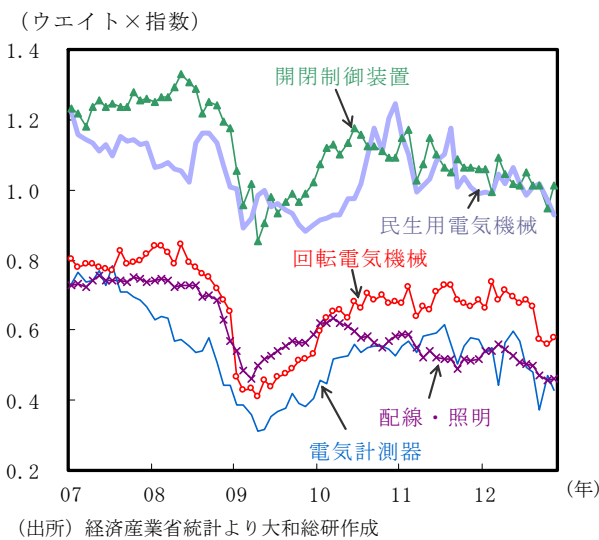
輸送機械



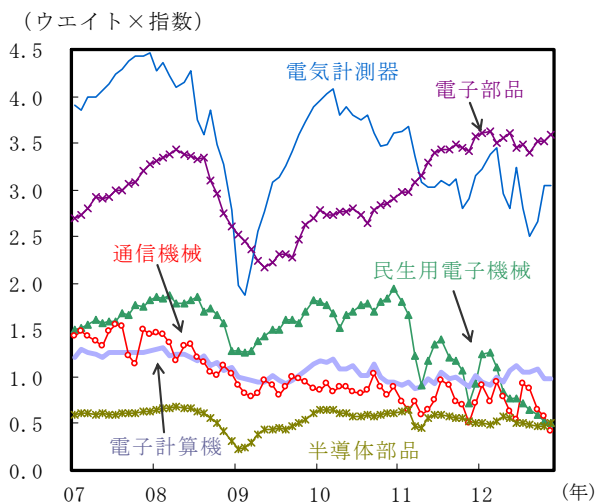
一般機械



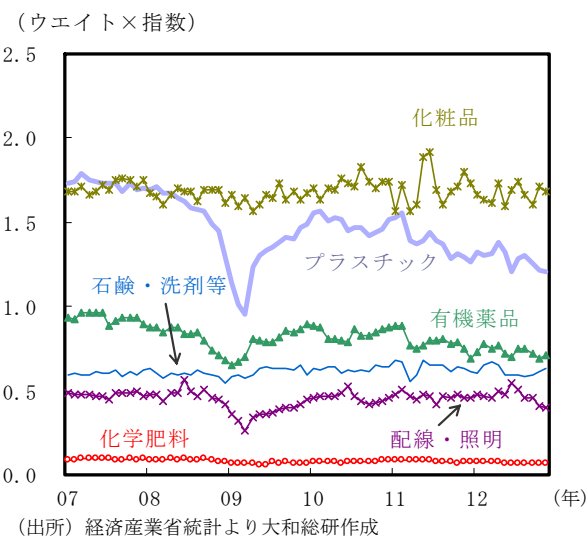
電気機械



電子部品・デバイス・情報通信



化学



鉄鋼・非鉄・金属

